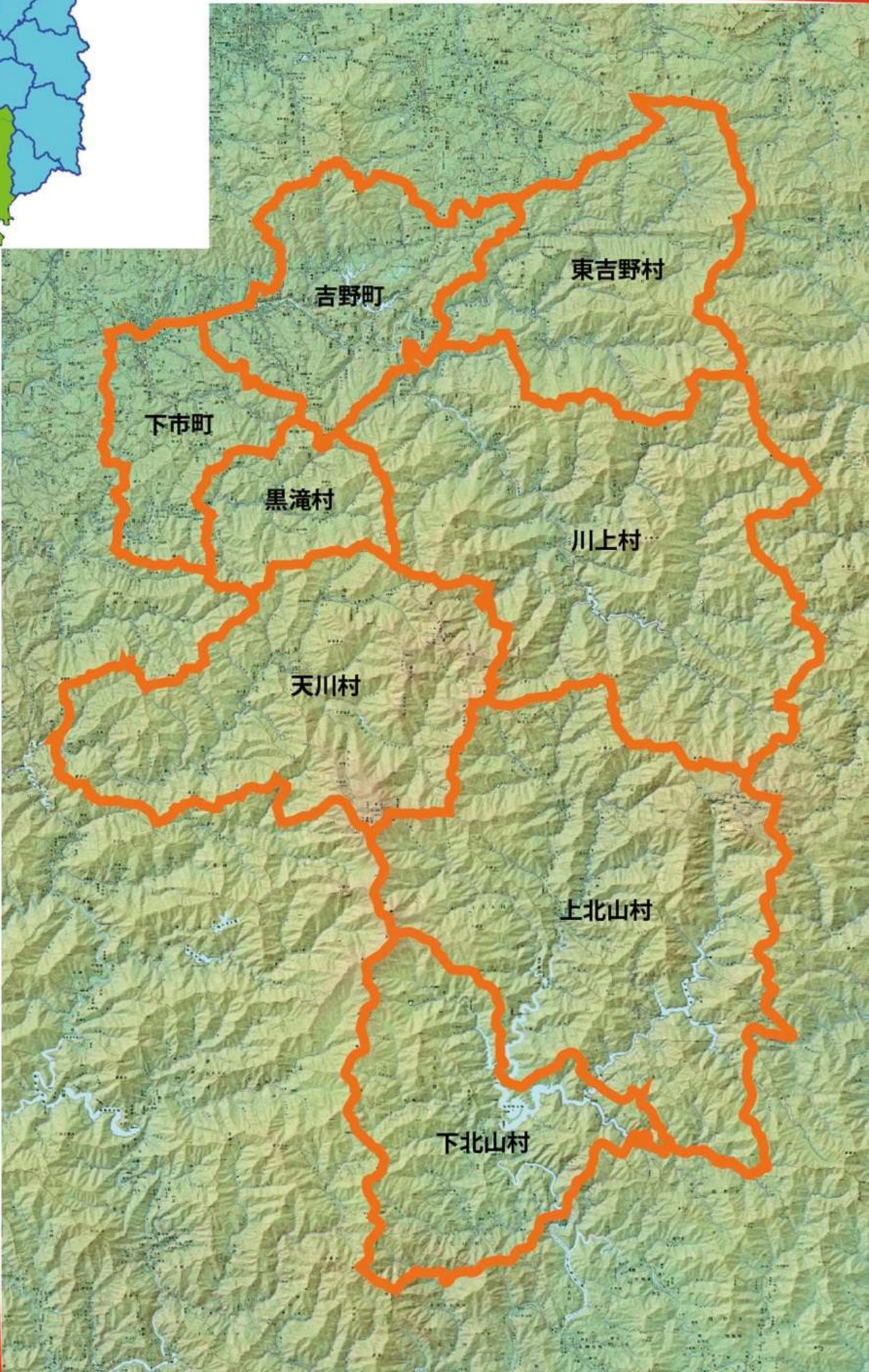
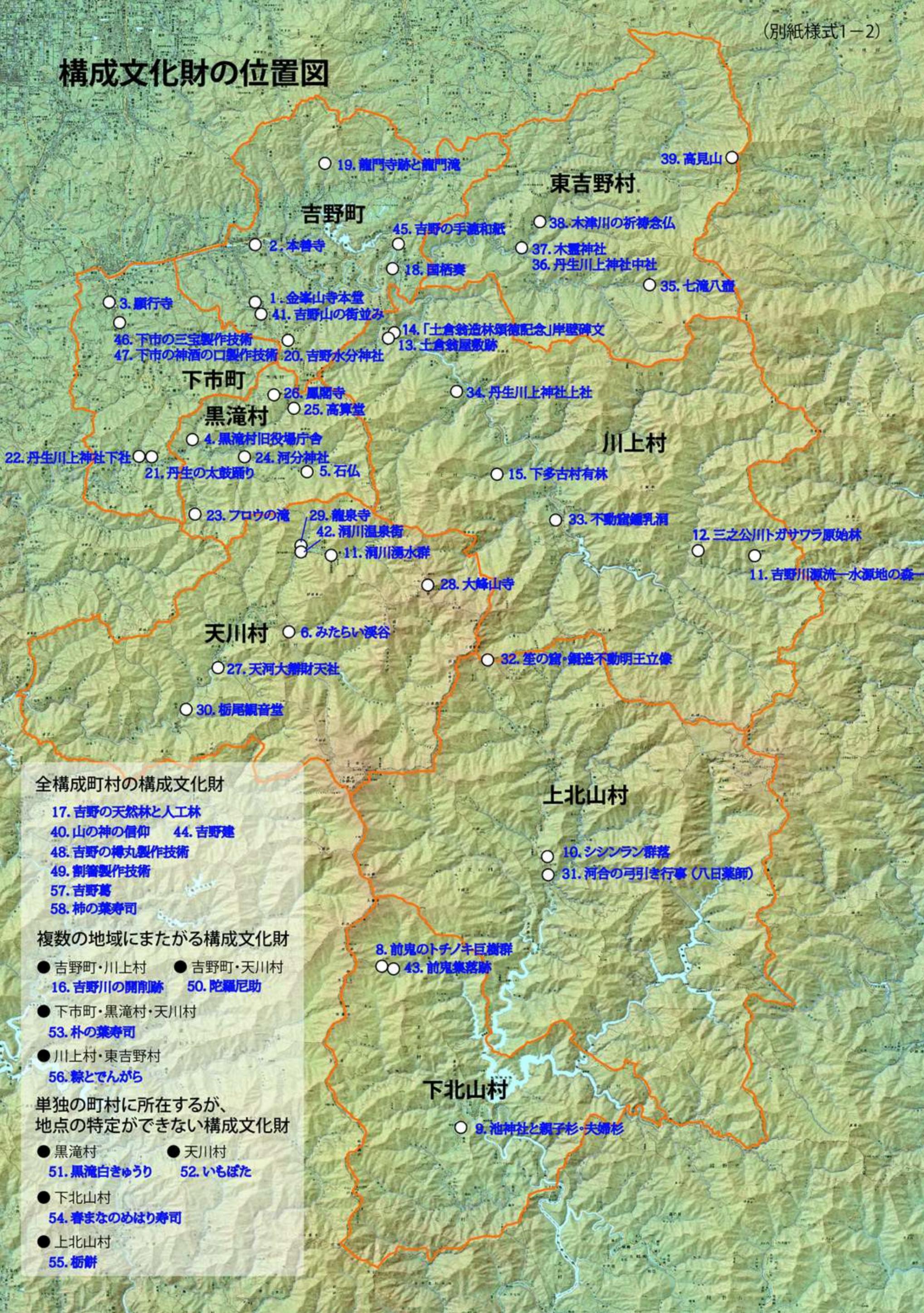


① 申請者	◎吉野町、下市町、黒滝村、天川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p>森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>我が国造林発祥の地である奈良県吉野地域には、約500年にわたり培われた造林技術により育まれた重厚な深緑の絨毯の如き日本一の人工の森と、森に暮らす人々が神仏坐す地として守り続ける野趣溢れる天然の森が、訪れる人々を圧倒する景観で迎えてくれる。</p> <p>ここに暮らす人々が、それらの森を長きに亘って育み、育まれる中で作り上げた食や暮らしの文化が今に伝わり、訪れる者はそれを体感して楽しむことができる。</p>			

奈良県



構成文化財の位置図



全構成町村の構成文化財

- 17. 吉野の天然林と人工林
- 40. 山の神の信仰
- 44. 吉野建
- 48. 吉野の樽丸製作技術
- 49. 割箸製作技術
- 57. 吉野葛
- 58. 柿の葉寿司

複数の地域にまたがる構成文化財

- 吉野町・川上村 ● 吉野町・天川村
- 16. 吉野川の開削跡 50. 陀羅尼助
- 下市町・黒滝村・天川村
- 53. 柿の葉寿司
- 川上村・東吉野村
- 56. 粽とでんがら

単独の町村に所在するが、地点の特定ができない構成文化財

- 黒滝村 ● 天川村
- 51. 黒滝白きゅうり 52. いもぼた
- 下北山村
- 54. 春まなのめはり寿司
- 上北山村
- 55. 栞餅

19. 龍門寺跡と龍門滝

39. 高見山

東吉野村

吉野町

45. 吉野の手漉和紙

38. 木津川の祈禱念仏

2. 本善寺

37. 木霊神社

18. 国栖奏

36. 丹生川上神社中社

3. 願行寺

1. 金峯山寺本堂

35. 七滝八壺

41. 吉野山の街並み

46. 下市の三宝製作技術

14. 「土倉翁造林頌徳記念」岸壁碑文

47. 下市の神酒の口製作技術

13. 土倉翁屋敷跡

下市町

26. 鳳閣寺

34. 丹生川上神社上社

黒滝村

25. 高算堂

22. 丹生川上神社下社

4. 黒滝村旧役場庁舎

川上村

21. 丹生の太鼓踊り

24. 河分神社

15. 下多古村有林

5. 石仏

23. フロウの滝

29. 龍泉寺

33. 不動窟鍾乳洞

42. 洞川温泉街

12. 三之公川トガサワラ原始林

11. 洞川湧水群

28. 大峰山寺

11. 吉野川源流一水源地の森

天川村

6. みたらい溪谷

32. 釜の窟・銅造不動明王立像

27. 天河大辨財天社

30. 栞尾観音堂

上北山村

10. シシラン群落

31. 河合の弓引き行事(八日薬師)

8. 前鬼のトチノキ巨樹群

43. 前鬼集落跡

下北山村

9. 池神社と親子杉・夫婦杉

ストーリー

◆天然の森から人工の森へ

奈良県南部の吉野地域に古代から広がっていた豊かな天然の森は、我が国屈指の多雨地帯であり、湿潤であるために多様な植物が密生していた。それ故に、そこで育つ木々が太径になるには他の地域より時間を要して、細やかな年輪と強靱な性質を持っていた。中世までは、そのような森の木を伐採することは、山や森に坐す神仏を祭祀する金峯山寺(きんぷせんじ)などの寺社を造営する必要に迫られた時に限られ、伐採しても自然の回復を待つことが常であった。

戦国期に至って、この地域の森と暮らしに大きな変化が訪れた。近畿各地で城郭や寺社の建築が増え、その用材として吉野の森林資源が注目されるようになった。それを効率的に運び出すために、蛇行する河川の岸壁を開削することで河川の流路改修が進められた。その結果、吉野の天然林は次々と伐採され、筏に組まれて運び出されていった。

このような流れの中で、伐採可能な天然林が徐々に減少したため、需要に応えるためには植林の必要に迫られるようになり、天然林が伐採されたあとに、建築材としてより価値の高い杉や桧が植えられるようになった。室町後期、川上村で初めて植林が行われたことが最古の記録であり、現に樹齢約400年の植林の森が川上村下多古(しもたこ)地区にある。

江戸中期になると、江戸などの大都市で灘や伊丹の酒の需要が高まり、その輸送用の樽の材料として吉野地方の木材の需要が増え、海上輸送をはじめとする長期の輸送にも耐えるよう更に品質を上げるために、植林、育林方法に工夫がなされるようになった。植林は、他の地域では1ha当たり3千本から4千本の植え付けが一般的だが、吉野地域では1ha当たり1万本の苗を植え付ける「密植(みつしょく)」という方法がとられた。その後は、「多間伐(たかんぼつ)」という方法がとられ、成長が悪い木を除伐しながら、木の生長に合わせて間伐を何度も繰り返す作業を行う。そして、一般的には40年から50年とされている最終伐期を、吉野では80年から100年以上に引き延ばす「長伐期(ちやうぼつき)」施業という独自の技術を創造した。その結果、木の外回りが真ん丸に近い真円で、まっすぐに育った木々は年輪幅がほぼ一定で密であるために強度が強く、色艶や香りの良い、どの地域の材よりも美しい杉桧の「吉野材」を生み出すこととなった。この優れた林業技術によって、この地域の山々には、等間隔に、且つ真っ直ぐに立ち並ぶ見事な人工の美林が作りあげられることとなった。

◆森に生きた人々のこころの証

しかし、吉野の人々は全ての山々を人工林に変えることはしなかった。人々は、山々を神仏と仰ぎ、その頂は神仏の頭であり、稜線伝いの道は神仏を巡る修行の道として、その周辺の天然の森には手を着けることなく守り続けた。古代から人々は、神仏と仰ぐ森や山、そこから流れ出る水などの依り代として祠を設けて祀った。中には、平安時代以降、皇室や撰閲家など貴頭の尊崇を受け



金峯山寺本堂



下多古村有林



吉野の天然林と人工林



山の神の信仰

ることとなった吉野水分神社(よしのみくまりじんじや)や丹生川上神社(にうかわかみじんじや)、金峯山寺などように豪壮な寺社に発展したところもある。

また、人工林は、山の暮らしに富をもたらしてくれる有難い存在として、人々は山の神と仰ぎ、ささやかな祠を設けて、今もその祭事が各所で執り行われている。

◆森の資源を活かした生活文化

吉野地方の多くは、急峻な地形が多く、宅地や田畑となる平地や緩斜面は極めて少なく、それ故に、石垣を積んで宅地や田畑を造り、あるいはまた、谷側を背にして斜面に張り付くような「吉野建(よしの建て)」と呼ばれる建築様式が形成された。

吉野町や下市町を除く村部には大規模な集落は少なく、緩斜面を削平した宅地に建つ民家や吉野建の民家が集まる小集落が谷間や山の中腹に点在し、大抵は山仕事を生業としてきた。しかし、中には山や森などを神仏と仰ぐ修験者が修行する前進基地として、その山の入り口に当たる稜線伝いの吉野町吉野山地区や、河川伝いの狭隘な地域である天川村洞川(どろがわ)地区のように旅館や山修行の手伝いを生業とする民家が混在する集落も形成された。

これらの集落での生活に必要な道具は、自ずと森の木々を利用した物が多い。下市町の三宝(さんぼう)などに代表される曲物(まげもの)が室町中期から作られたほか、江戸中期からは全国に先駆けて、黒滝村などでは樽丸(たるまる)という樽の側板材が盛んに生産され、全国生産量の殆どを明治期に至るまで吉野地方が担っていた。明治初期からは、樽丸生産や製材の過程で出る端材を利用した割箸作りが下市町で考案され、吉野町や下市町などで割箸が盛んに生産されるようになり、これもまた全国生産量の殆どを担っていた。

傾斜地や谷間に暮らすこの地域の人々は、米作に適さない土地柄であるが故に、森の恵みに食材を求め、あるいは環境に合う作物や加工食品をつくり、食生活を充実してきた。また、保存効果や殺菌効果が高いとされる柿や朴(ほう)の葉などを利用した寿司を作る文化が形成されて、吉野川に沿った地域では柿の葉寿司、黒滝村・天川村・下市町などでは朴の葉寿司が今に伝わっている。下北山村や上北山村などは栃餅に代表される森の恵みに栄養源を求めることもあった。また、吉野地域で生産された葛は、「吉野葛」として料理に利用されるほか、葛湯、葛餅、葛菓子、葛きりなどの材料として全国にその名が知られる。

造林発祥の地“吉野”で車を走らせれば、人工の常緑の森が、重厚で一糸乱れぬ装いで広がるかと思えば、天然の森の色形ともに変化に富む景観が現れる。この地域の二つの壮大な美林連なる景観の中で、人々はその造林技術と育み育まれた森への祈りを今に伝え、訪れる者はその森とともに暮らす生活を実感することができる。



吉野建



吉野の樽丸製作技術



柿の葉寿司

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	金峯山寺本堂 <small>(きんぷせんじほんどう)</small>	国宝 (建造物)	修験道の根本道場であり、幾度かの被災に際しても吉野の山地で育った材木が利用された。堂内の梨・躑躅 <small>(つづじ)</small> の名木と伝える天然木の柱群は、吉野の天然林資源の豊かさの象徴である。	吉野町
2	本善寺 <small>(ほんぜんじ)</small>	国登録 (建造物)	真宗教団が吉野町飯貝 <small>(いいがい)</small> に建立した寺院。 真宗教団は、石山本願寺 <small>(いしやまほんがんじ)</small> 等の大寺院建立の建築材として吉野の材木を利用するため、吉野の森林資源の搬出の拠点であった当地に本善寺を建立した。真宗教団が開発した筏の流下ルートが、江戸時代の吉野材搬出のルートの原型となった。	吉野町
3	願行寺 <small>(がんぎょうじ)</small>	町指定 (建造物)	下市御坊 <small>(しもいちごぼう)</small> と呼ばれた真宗寺院で、室町時代には、吉野林業の担い手であった柚人 <small>(すまびと)</small> たちの心の拠り所であり、同寺の周辺には木材加工技術を持った人々が集住した。	下市町
4	黒滝村旧役場庁舎 <small>(くろたきむらきゅうやくばちやうしゃ)</small>	県指定 (建造物)	明治末、黒滝郷材木組合 <small>(くろたきごうざいもくくみあい)</small> の事務所として建てられた洋風木造建築。当時の林業家たちの活動の場を知る上で貴重な建造物。現在は、樽丸 <small>(たるまる)</small> づくりの道具(県指定)が展示され、庭には和歌山市にあった黒滝材の貯木場の記念碑が移設されている。	黒滝村
5	石仏 <small>(いしぼとけ)</small>	未指定	黒滝川を流下する木材は、ここで筏に組み上げられた。付近に、水の安全を祈ったという石仏が祀られ、山で暮らす人々の素朴な信仰を見ることができる。	黒滝村
6	みたらい溪谷	未指定	みたらい溪谷は、山上川 <small>(さんじょうがわ)</small> が川迫川 <small>(こうせがわ)</small> に合流する場所に位置し、特に狭まった山の裾の大岩壁を大小の滝が流れ落ちる吉野に残された代表的な自然景観である。	天川村
7	洞川湧水群 <small>(どろがわゆうすいぐん)</small>	未指定	洞川湧水群は、ごろごろ水・泉の森・神泉洞 <small>(しんせんどう)</small> という3つの湧水からなり、花崗岩と石灰岩の地層から湧き出る湧水は、適度なミネラル分を含み、修験者や山で暮らす人々にとって今も	天川村

			無くてはならない水源となっている。	
8	前鬼 <small>(ぜんき)</small> のトチノキ巨樹群	県天然記念物	前鬼宿坊 <small>(しゆくぼう)</small> から太古の辻 <small>(たいこのつじ)</small> 方面へ少し登った所に、トチの巨木があり、中には幹回り10mを超えるものもある。このトチの木の実は栃餅 <small>(とちもち)</small> の材料として重宝され、山里の伝統食として今も受け継がれている。	下北山村
9	池神社 <small>(いけじんじや)</small> と親子杉 <small>(おやこすぎ)</small> ・夫婦杉 <small>(めおとすぎ)</small>	村天然記念物	村内で一番高所にある池峰 <small>(いけみね)</small> 集落に役行者 <small>(えんのぎょうじゃ)</small> が開いたとする池神社がある。この神社は、正面にある明神池 <small>(みょうじんいけ)</small> をご神体とし、親子杉・夫婦杉などの杉の大木に囲まれた場所は、山で暮らした人々の信仰の形を今に伝えている。	下北山村
10	シンラン群落	国天然記念物	シンランは、本州南部暖地産の着生常緑植物でツクバネ檜に着生するイワタバコ科の植物。7月頃に直径3cm程の可憐な白い花を咲かせ、上北山村の水分神社(創建1450年代)にあるシンランが自生の最北限である。レッドリストにも掲載される希少な植物で、絶滅危惧種に指定されている小型の蝶「ゴイシツバネシジミ」の幼虫の餌になり、吉野の自然の豊かさをあらわしている。	上北山村
11	吉野川源流－水源地の森	未指定	吉野林業にかかせない豊かな雨によって育まれた吉野川最源流部に位置する原生林。吉野を代表する天然林の一つで、村によって保存されている。	川上村
12	三之公川 <small>(さんのこがわ)</small> トガサワラ原始林	国天然記念物	氷河期に吉野で繁茂した針葉樹の原始林。吉野の自然が多様な植生を支えてきたことを物語る天然林。	川上村
13	土倉翁 <small>(どぐらおう)</small> 屋敷跡	村指定 (歴史記念物)	土倉式造林法を確立した吉野林業の父土倉庄三郎 <small>(どぐらしょうざぶろう)</small> の屋敷跡。功績を称え銅像が建立されている。	川上村
14	「土倉翁造林頌徳記念 <small>(どぐらおうぞうりんしょうとくきねん)</small> 」岸壁碑文	村指定 (歴史記念物)	土倉庄三郎の功績を称え、大滝の岸壁に刻まれた碑文。	川上村
15	下多古 <small>(しもたこ)</small> 村有林	未指定	日本最古の人工林。樹齢が250～390年生の杉、桧が育てられている。500年の歴史を誇る吉野林業の「歴史の証人」として保存されている。	川上村
16	吉野川の開削跡 <small>(かいさくあと)</small>	未指定	激しい蛇行を繰り返す吉野川上流域では、岩場を開削した跡が随所に残るが、大滝と宮滝は特に蛇行が激しく、この開削によって筏の流下が容易となり、吉野の森林資源の開発が加速した。	吉野町 川上村

17	吉野の天然林と人工林	未指定	吉野の山地の各地には、古くからこの地で生育した見事な天然林と、吉野林業による造林により生育した人工美林が発達し、それらの美林を雄大なパノラマとして望み見ることができる眺望点がいくつも存在する。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
18	国栖奏 <small>(くすそう)</small>	県無形民俗	応神朝に起源をもつとされる神事。吉野に伝えられた古風な神事の形態をいまに伝えている。	吉野町
19	龍門寺跡 <small>(りゅうもんじあと)</small> と龍門滝 <small>(りゅうもんたき)</small>	県史跡 (龍門寺跡のみ)	龍門滝周辺には、古代から吉野の自然を崇拝し、修行の場とした修行者たちが修行する場であり、後にその修行の場に寺が作られたのが龍門寺である。	吉野町
20	吉野水分神社 <small>(よしのみくまりじんじや)</small>	重文 (建造物)	吉野では天然林・人工林ともに豊かな水によって支えられていた。この豊かな水の配分に関わり古来より崇敬された神社である。	吉野町
21	丹生 <small>(にう)</small> の太鼓踊り <small>(たいこどり)</small>	県無形民俗	豊かな稔を願って踊られた雨乞いのための踊り。吉野に暮らす人々の素朴な信仰に裏付けられた祭礼。	下市町
22	丹生川上神社下社 <small>(にうかわかみじんじやしもしや)</small>	未指定	日本最古の水神を祀る神社。雨乞いには黒馬を、晴れを祈る時は白馬をこの社に献上したという。絵馬発祥の神社としても有名で、森を育むために必要な水を祀った神社として崇敬された。	下市町
23	フロウの滝	未指定	江戸初期の禅僧・盤珪 <small>(ばんけい)</small> の修行の地と伝える。彼は、この滝の畔で当地に留まり修行を重ねたという。	黒滝村
24	河分神社 <small>(かわわけじんじや)</small>	未指定	吉野の暮らし、森を育てるためには水が不可欠であり、その水を分ける神は特別な信仰を集めた。河分神社は二つの川の分岐に鎮座する神であり、長いあいだ雨乞 <small>(あまごい)</small> いや雨祝 <small>(あまいわい)</small> の神事がおこなわれていた。	黒滝村
25	高算堂 <small>(こうさんどう)</small>	未指定	吉野を代表する祭礼の一つである吉野山の会式(花供懺法 <small>はなくせんぼう</small>)をはじめた高算上人の墓と伝え、この地の人々から信仰された。	黒滝村
26	鳳閣寺 <small>(ほうかくじ)</small>	未指定	吉野の修験道の道場として建てられた寺院で、旧境内には修験道を再興した理源大師 <small>(りげんだいし)</small> の廟塔(国重文)があり、本堂には山伏姿の理源大師像(村指定)が祀られている。	黒滝村
27	天河大辯財天社 <small>(てんかわだいはんざいてんしや)</small>	未指定	神社は、日本三大弁天の筆頭とされ、水を祀る神でもあり、音楽や芸能の神様としても有名である。	天川村

28	大峰山寺 <small>(おおみねさんじ)</small>	重文 (建造物)	金剛蔵王大権現 <small>(こんごうざおうだいこんげん)</small> を本尊とする、国重要文化財の寺院。天武天皇元 (672) 年、役行者が苦行ののちに金剛蔵王大権現を感じ、蔵王堂 <small>(ざおうどう)</small> を建立したのに始まると伝える。修験道の根本道場であり、我が国の中でも最高所級の場所に所在する重要文化財。	天川村
29	龍泉寺 <small>(りゅうせんじ)</small>	未指定	1300 年の昔、大峯の山々を行場として修行された役行者が、こんこんと湧き出る泉を発見し、これを龍の口と名付けて、そのほとりに小堂を建て、八大龍王をお祀りされたと伝え、これが龍泉寺の始まりである。 寺の裏手の森は、龍泉寺の自然林として県天然記念物に指定されており、吉野の豊かな自然を寺域に持つ寺院である。	天川村
30	栃尾観音堂 <small>(とちおかのんどう)</small>	未指定	江戸時代、放浪の僧円空が当地で彫った聖観音菩薩立像 <small>(しょうかんのんぼさつりゅうぞう)</small> 、大辨財天女立像 <small>(だいべんざいてんにょりゅうぞう)</small> 、金剛童子像、護法神像 <small>(ごほうしんぞう)</small> の四体を安置する観音堂。 栃尾の集落に暮らす人々に信仰をされた小堂。	天川村
31	河合 <small>(かわい)</small> の弓引き <small>(ゆみひき)</small> 行事 (八日薬師 <small>ようかやくし</small>)	県無形民俗	この行事の発祥は、すべて口伝により受け継がれてきており、その時期などはさだかではない。山で暮らす民の唯一の生活の糧である木材を出す作業は非常に危険であり、しばしば命をおとすことがあったため、仕事の安全と一年の暮らしの安寧を願い、正月の初めに一年の厄を的に見立てそれを鎮めるという意味でこの行事が伝わったと推察される。 行事の式次第は、古式にのっとり行われており、山で住まいする人たちの歴史と思い入れを感じさせる。	上北山村
32	笹の窟 <small>(しやうのいわや)</small> ・銅造不動明王立像	史跡 県指定 (彫刻)	笹の窟は、大峯山脈の主稜を構成する大普賢岳 <small>(だいふげんだけ)</small> 東方の日本岳の中腹南面岩壁に開口する自然窟であり、「大峯山行所」の「七十五廨 <small>(なびき)</small> 」のうち、「六十二廨」の行場霊地である。樹齢約 500 年の自然林に囲まれており、冬籠の行場で千日籠り修行が行われていたとされる。北野天神縁起絵巻 <small>(きたのてんじんえんぎえまき)</small> による日蔵上人 <small>(にちざう)</small> の冥界遍	上北山村

			歴と弁覚上人(べんかく)の勧進(1232年)による銘の金銅不動明王像が祀られていた。 吉野で展開した修験道の行場として知られている。	
33	不動窟鍾乳洞(ふどうくつしょうにゅうどう)	県天然記念物	大峰登山の裏行場としての名が高い。 洞窟内には不動明王が祀られている。	川上村
34	丹生川上神社上社(にうかわかみじんじやかみしゃ)	未指定	吉野地方の豊富な雨は林業を育ててきた。水の神様である龍神をお祀りする神社。祈雨(きう)、止雨(しう)のお祈りに黒馬や白馬が奉納された。絵馬の発祥の地ともいわれる。	川上村
35	七滝八壺(ななたきやつぱ)	未指定	水が涸れることなく滾々と流れ落ちる滝で、こうした水が豊かな吉野の森を育んだ。	東吉野村
36	丹生川上神社中社(にうかわかみじんじやなかしゃ)	村指定 (建造物)	水神、罔象女神(みずはのめのかみ)をご祭神とする神社。灌漑用水や井戸を司る「罔象(みずはのめ)」の文字は水の精を指し、罔象女神は日本の代表的な水神でもある。	東吉野村
37	木霊神社(こだまじんじや)	未指定	丹生川上神社中社境内にある神社。祭神の五十猛命(いそたけるのみこと)は林業の神として信仰されている	東吉野村
38	木津川(こつがわ)の祈祷念仏(きとうねんぶつ)	県無形民俗	村落の平穏無事を祈る踊り念仏。毎年二百十日(にひゃくとおか)の前祈祷(まえきとう)として行われ、山で暮らした人々の古風な祭礼芸能。	東吉野村
39	高見山(たかみさん)	未指定	台高(たいこう)山脈の北端、奈良県と三重県境に位置する高見山(1249m)は、古くから信仰の対象となった秀麗な山。山頂の「高角神社(たかすみ)」には、祭神として「瀬織津姫命(せおりつひめのみこと)」も祀られ、神武天皇東征の先導をつとめたという「八咫鳥建津命(やたがらすたけつぬみのみこと)」も祀られ、古くから地元の人たちから尊崇されている。	東吉野村
40	山の神の信仰	未指定	吉野の山の神は、地域毎に多様な形態があるが、構成町村のほぼ全地域に祀られている。 特色のある供物としては、削り掛けなどの作り物、山の道具のミニチュアなどがある。また、山の神がイノコや弁天信仰と習合している地域もある。 山に生きた人々にとって、山の神は最も身近な神であり、そこには素朴な山と森への信仰が息づいている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
41	吉野山の街並み	未指定	吉野山の街並みは、尾根筋に道が作られ、その両側に吉野建(よしのだて)の民家・	吉野町

			商家・旅館・寺社が陸続と続いている。吉野に住む人々にとっては、経済活動の拠点となり、山伏など大峯で修行する人々にとっては、奥駈 <small>(おくがけ)</small> 修行の拠点となった。	
4 2	洞川 <small>(どろがわ)</small> 温泉街	未指定	修験道の大峯山内一の行場とされる龍泉寺を中心に、大峯信仰の登山基地として栄えた洞川温泉には、たくさんの旅館・土産物店・お食事処が軒をつらね温泉街を形作り、修験道の修行の拠点でもあった。	天川村
4 3	前鬼集落跡 <small>(ぜんきしゅうらくあと)</small>	未指定	役行者に従えていた前鬼 <small>(ぜんき)</small> ・後鬼 <small>(ごき)</small> の子どもたちが住んだといわれる前鬼という集落は、明治半ばまで彼らの子孫による五つの宿坊があった。石垣などによって平坦地を造成した景観は、吉野の山地で営まれた集落の姿を伝えている。	下北山村
4 4	吉野建 <small>(よしの建て)</small>	未指定	山地で急傾斜地が多い吉野地域で家屋を建てるために発達した建築様式。地階を持つ懸造の一種で、吉野の山村の独特な景観となっている。道に面する一階は、商業空間などの公的な機能を備え、地階は家族専用の空間として利用している。また、基礎は石垣段状積みとなっている場合が多い。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
4 5	吉野の手漉 <small>(てすき)</small> 和紙	未指定	国栖地区では、和紙を漉 <small>(す)</small> く職人が多く集住し、様々な和紙が漉かれていた。現在でも表具用手漉和紙や漆漉紙 <small>(うるしごしがみ)</small> が生産され、吉野の代表的な伝統工芸である。	吉野町
4 6	下市 <small>(しもいち)</small> の三宝 <small>(さんぼう)</small> 製作技術	未指定	吉野下市の里に受け継がれる技巧の矜持、伝統工芸三宝は、吉野地域で発達した曲物 <small>(まげもの)</small> の技術を活かして作られている。南北朝時代、天皇への献上物の器として使用されたのが始まりと言われており、吉野檜の無垢な風合いが悠々の技巧を際立たせている。三宝の名前の由来は、胴 <small>(たい)</small> の三方向に穴が開いているところからつけられたと言われている。現在下市町で製作される三宝は、国内シェアの90%を占めている。	下市町

47	下市 ^(しもいち) の神酒の口 ^(みきのくち) 製作技術	未指定	神酒の口は神具の一種で、曲げ物の製作技術によって支えられる工芸品で、神棚にそなえる神酒徳利の口に挿して装飾される。「粘り、光沢、香り」と三拍子そろった吉野桧の背板を選び、表面に溝を彫り、編み目のように組み合わせ合わせて作られる。その形は、上部が「炎」で下部が「水玉」である。炎は「風」を呼びおこすといわれ、人間の生活の原点である「火と水」を象って構成されている。	下市町
48	吉野の樽丸 ^(たるまる) 製作技術	国無形民俗	酒樽の側板の材料となるクレと呼ばれる杉板を、マルワという竹の輪に詰め込む技術。江戸時代中期に灘や伊丹の酒を詰める酒樽の側板とするために始まったとされる。吉野で林産加工技術として発達し、全国各地の杉の植林地へ技術が伝播するとともに、その端材を利用した割箸製作技術も派生させた。日本の林産加工技術史上最も貴重な事例の一つ。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
49	割箸 ^(わりばし) 製作技術	未指定	割箸製作技術は、吉野の樽丸製作技術から派生した製作技術。樽丸では使えない端材を余すところなく使用するために割箸生産が考案された。現在でも杉桧で良質の割箸【種類：小判・元禄・天削 ^(てんそけ) ・利休・卵中 ^(らんちゅう) 】が生産されている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
50	陀羅尼助 ^(だらにすけ)	未指定	役行者が山中で修行する山伏のために、吉野の薬草から作ったとされる和薬。キハダを主成分とし、現在も地元で生産され、下痢止め・胃腸薬として用いられている。	吉野町 天川村
51	黒滝白きゅうり	未指定	黒滝白きゅうりは、黒滝の自然で育つ野菜。全体が白くえぐみがないのが特徴で、通常の青きゅうりと比べて太くて短く、黒滝でなければ生育しないといわれる。現在まで種子を受け継ぎ村内各家庭で生産されている。コリコリ感のある食感で昔から漬物にして村民に親しまれており、林業が盛んであった頃には、山の作業場で、アサチャとして粥とともに黒滝白きゅうりの漬物を食べる習慣があった。	黒滝村
52	いもぼた	未指定	天川で昔から伝わる郷土料理。米と細かく切ったジャガイモを炊いて手の平大に握り、表面を焼いた料理。山間部	天川村

			で寒冷な気候のため、米が育ちにくいなか、保存食のジャガイモを利用したおやつ料理として各家庭で受け継がれている。	
53	朴 ^(ほう) の葉寿司	未指定	朴の葉寿司は、旧5月の節句(6月5日)などの夏の祭事に、握った飯の上に生鯖の切り身を載せ、これを朴の葉で包んだ寿司。弁当に供せられることもあった。	下市町 黒滝村 天川村 東吉野村
54	春まなのめはり寿司	未指定	春まなは、下北山村の気候でしか栽培できない野菜と言われ、古くから村内で栽培されてきた。長期間の泊り山での仕事の時には、春まなの漬物樽を持ってあがり、山小屋で春まなのめはり寿司を作って食べた。	下北山村
55	栃餅 ^(とちもち)	未指定	上北山村の代表的な特産品。木灰汁で栃の実の灰汁抜きをし、手間暇かけて作っている。現在では、灰汁抜きをする際に石灰などを混ぜて灰汁抜きをするところもあるが、上北山村の栃餅は純粋な木灰を使用している。また、砂糖・塩なども入れておらず、まざりけなしの天然の味で、吉野の山地を代表する餅。	上北山村
56	粽 ^(ちまき) とでんがら	未指定	端午の節句の時に、子孫繁栄や子どもたちの無事な成長を願って、粽 ^(ちまき) とでんがらが作られる。粽はアセの葉などで包み、でんがらは朴の葉で包んだ。粽とでんがらは、男女のシンボルを象ったとも伝えられている。	川上村 東吉野村
57	吉野葛 ^(よしのくず)	未指定	葛の根を精製して作られる葛粉の呼称。古くは修験者の食糧だったものを、村人が自家製したものを売ったのが始まりとされる。 デンプン質が葛の根に集まる厳寒期に葛根を掘り、砕いて桶に入れ、葛の繊維を取り除きデンプンを沈殿させる。これを何度も繰り返すことでデンプンがさらされ、上質のデンプンが得られる。それを天日で数日、屋内で一か月ほど乾燥させて製品となる。 古くは救荒作物としても食されたが、次第に吉野の名産品とされ、吉野葛と呼ばれるようになった。 吉野葛は、雪のように白く曝されたものが上質とされ、葛菓子などの素材として珍重されている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村

58	柿の葉寿司	未指定	吉野川流域を代表する寿司。塩鯖を三枚におろし、薄くそいだ切り身を一口大に握った酢飯に乗せて、柿の葉で包んで押しをかけた寿司。近年では鮭も用いられることがある。海がない吉野では、熊野から運ばれた塩鯖をもちい、柿の葉は、渋柿のものが良いといわれている。	吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村
----	-------	-----	--	------------------------------------

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1. 金峯山寺本堂



2. 本善寺



3. 願行寺



4. 黒滝村旧役場庁舎



5. 石仏



6. みたらい溪谷



7. 洞川湧水群



8. 前鬼のトチノキ巨樹群



9. 池神社と親子杉・夫婦杉



10. シシラン群落



11. 吉野川源流一水源地の森



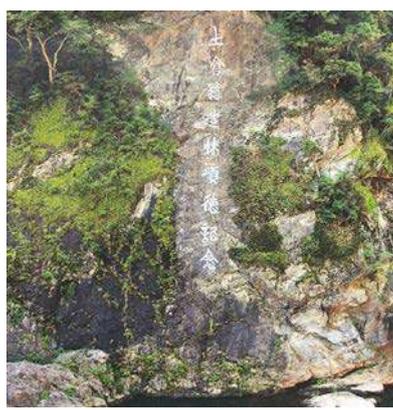
12. 三之公川トガサワラ原始林



13. 土倉翁屋敷跡



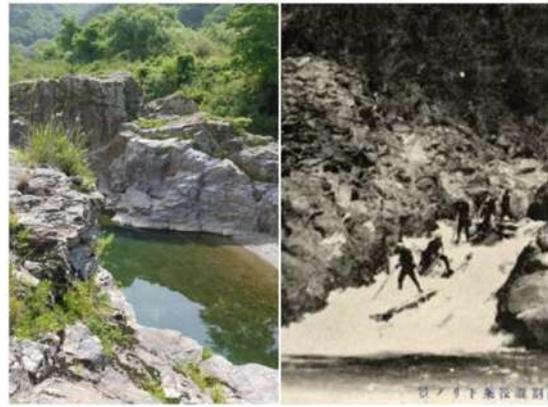
14. 「土倉翁造林頌徳記念」崖壁碑文



15. 下多古村有林



16. 吉野川の開削跡



17. 吉野の天然林と人工林



18. 国栖奏



19. 龍門寺跡と龍門滝



20. 吉野水分神社



21. 丹生の太鼓踊り



22. 丹生川上神社下社



23. フロウの滝



24. 河分神社



25. 高算堂



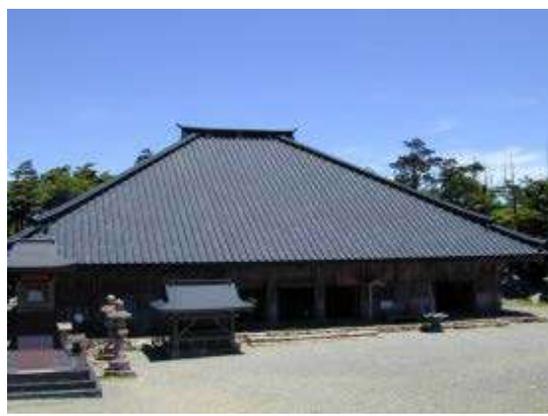
26. 鳳閣寺



27. 天河大辯財天社



28. 大峰山寺



29. 龍泉寺



30. 栃尾観音堂



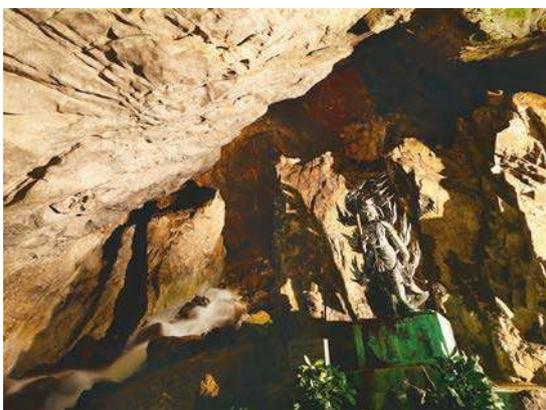
31. 河合の弓引き行事 (八日薬師)



32. 笙の窟・銅造不動明王立像



33. 不動窟鍾乳洞



34. 丹生川上神社上社



35. 七滝八壺



36. 丹生川上神社中社



37. 木霊神社



38. 木津川の祈禱念仏



39. 高見山



40. 山の神の信仰



41. 吉野山の街並み



42. 洞川温泉街



43. 前鬼集落跡



44. 吉野建



45. 吉野の手漉和紙



46. 下市の三宝製作技術



47. 下市の神酒の口製作技術



48. 吉野の樽丸製作技術



49. 割箸製作技術



50. 陀羅尼助



51. 黒滝白きゅうり



52. いもぼた



53. 朴の葉寿司



54. 春まなのめはり寿司



55. 栃餅



56. 粽とでんがら



57. 吉野葛



58. 柿の葉寿司



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 地域活性化計画
① 将来像 (ビジョン)
<p>日本遺産の認定を契機として、下記の将来像が具現化されることを目指すものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が地域の歴史や文化に誇りを持ち、それを自らのものとし保全や活用に積極的に参画している。 ・日本遺産の構成文化財が良好に保全・継承されている。 ・日本遺産をテーマとした観光戦略の展開によって、新しい人の流れが創出されている。 ・吉野のブランド力がさらに向上し、地場産業振興の基盤となっている。
② 地域活性化のための取組
<p>■日本遺産について地域内で周知を図り、郷土への愛着を醸成する</p> <p>地域内で日本遺産を学ぶ学習の場を設け、日本遺産の魅力を地域のなかで深化させ、日本遺産の価値が正しく地域に根付く事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会 ・日本遺産を学ぶ地域講座（継続的に構成町村毎に開催） <p>■地域住民が来訪者の“おもてなし”や旅行・体験を担う山先達を育成する。</p> <p>吉野地域に昔はから存在していた山先達制度を復活させ、山先達が来訪者の“おもてなし”や旅行などのコーディネートをすることにより、当地へのリピーター率を増加させる。また、吉野地域に在住する外国出身者が、外国からの来訪者をガイドする制度を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山先達養成と山先達による有償旅行ガイドの充実 ・吉野地域に在住する外国出身者による有償ガイドの育成 <p>■日本遺産の魅力を活用した広域的な観光プロモーションの展開</p> <p>衣食住も含めた広範囲の構成文化財を擁する本日本遺産の魅力を最大限アピールできる情報発信のツールの整備をおこない、それらを効果的に発信することにより、新しい観光客の掘り起こしを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマークの制作 ・多言語化日本遺産パンフレット・冊子の制作⇒ターゲットを明確にした情報発信ツールとして活用 ・多言語化日本遺産紹介映像の制作⇒インターネット等を広範囲への情報発信ツールとして活用 ・公共交通機関でのラッピング広告の展開 ・大都市圏でのイベントの開催 <p>■日本遺産を巡る快適で、解りやすい観光ルートを整備し、新しい広域観光を推進する。</p> <p>本地域の日本遺産は広域に分散しているため、その日本遺産を巡るテーマ毎の観光ルートを設定し、そのルートを快適に周遊するための案内標識・案内施設・便益施設などを整備する。</p> <p>案内標識・案内板・便益施設等は、吉野材等を積極的に活用する。また、案内は多言語化を原則として、外国人観光客の受入態勢を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ルート（天然林・人工林の眺望点の設定を含む）の設定 ・多言語化した案内標識・案内板の設置 ・便益施設の整備

- ・ 宿泊施設等の案内の充実

■日本遺産により、吉野ブランドのイメージを強化し、地場産業の振興を支援する。

従来から吉野の地場産業が構築してきた吉野ブランドのイメージに、日本遺産の要素を加えることによりその強化を図り、林業など日本遺産に関連する地場産業の振興を支援する。

- ・ ロゴマークの該当製品への添付の推進
- ・ 日本遺産の該当製品のパンフレットの製作

(2) 平成28年度補助対象事業計画

① 事業予定額（補助対象経費） 70,000千円

②補助事業者

(仮称) 吉野地域日本遺産活性化協議会

民間

(一社) 吉野ビジターズビューロー・吉野町商工会・吉野中央森林組合・下市町観光協会・下市町商工会・下市町森林組合・黒滝村商工会・黒滝村森林組合・天川村商工会・大峯山洞川温泉観光協会・天川村森林組合・下北山村商工会・上北山村商工会・上北山村観光協会・吉野きたやま森林組合・川上村商工会・川上村森林組合・東吉野村観光協会・東吉野村商工会

行政

吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村

③事業の概要

■日本遺産について地域内で周知を図り、郷土への愛着を醸成する

日本遺産登録記念講演会	800千円（講師謝金＋会場費＋広報宣伝費）
日本遺産を学ぶ地域講座	200千円（8会場：会場費＋広報宣伝費）

■地域住民が来訪者の“おもてなし”を担う体制を構築する。

山先達養成講座	3,200千円（8講座×8会場）
---------	------------------

■日本遺産の魅力を活用した広域的な観光プロモーションの展開

ホームページの制作委託費	1,500千円
ロゴマークの制作委託費	1,000千円
日本遺産広報のポスター制作及び掲示業務委託費	3,800千円
多言語化日本遺産説明パンフレットの制作委託費	5,000千円（100,000枚：国語含む5カ国語）
多言語化日本遺産紹介映像の制作	3,000千円（国語・英語）
ラッピング電車・バスによる広報費	17,000万円
大都市圏イベント開催費	3,000千円

■日本遺産を巡る快適で、解りやすい観光ルートを整備し、新しい広域観光を推進する。

案内板企画費・設置工事費	14,000千円（700千円×20か所）
--------------	----------------------

説明 QR コンテンツ整備費	10,000 千円 (500 千円×20 か所)			
観光ルートの造成企画費	2,500 千円 (5 ルート)			
ルートマップ作成	2,000 千円			
モニターツアー企画運営費	3,000 千円			
作って味わう食体験ツアー・お祭り参加体験ツアー				
④ 成果目標				
・観光客入込客数 平成 28 年度予測 3,000 千人 (平成 26 年度実績 2,817 千人)				
⑤他の補助金等により実施を計画している事業				
機関・団体名	事業名	事業内容	事業費	補助額
文化庁				
	歴史活き活き！史跡等総合整備活用事業	史跡宮滝遺跡の整備事業 【吉野町】	4,600 千円	2,300 千円
小計			4,600 千円	2,300 千円
文化庁以外の省庁				
総務省	過疎地等集落ネットワーク圏形成支援事業	地域の拠点を形成し、地域の活性化を図る。 【吉野町】	20,000 千円	20,000 千円
内閣府	木工・地場産業伝承者育成事業	木工及び割箸・三宝・神酒の口を伝承する若者を育成することを目的に事業に取り組む 【下市町】	4,500 千円	4,500 千円
内閣府	地域産業ステップアップ事業	吉野杉箸商工業協同組合に対して各種割箸の PR 及び活動のステップアップを図り、新たな商品の開発等を行う。 【下市町】	1,000 千円	1,000 千円
小計			25,500 千円	25,500 千円
国以外の公的機関、民間団体等				
(一財)自治総合センター	環境保全促進事業	吉野山の桜の保全についての周知活動 【吉野町】	2,100 千円	2,000 千円
小計			2,100 千円	2,000 千円
都道府県・市町村				

(様式 4)

奈良県	木製橋梁改修事業	吉野町の遊歩道内の木製橋梁 2基を改修 【吉野町】	3,400 千円	1,700 千円	
奈良県	観光力パワーアップ事業	フォトコンテストの実施 【天川村】	1,000 千円	500 千円	
			小計	4,400 千円	2,200 千円
			合計額	36,600 千円	32,000 千円

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
31	森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～

(1) 将来像 (ビジョン)

【本協議会の将来的なビジョン】

森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
 連綿と受け継がれてきた雄大な自然と暮らしの中で息づいてきたところを守り、伝えていくため、構成文化財を保存しながら、体験型コンテンツの造成や関係人口を増やすための取り組みを行っていく。広域観光の推進による経済の循環と、観光客も住民も誰もが安心・安全に過ごすことができ、地域の魅力を満喫できる地域を目指し、この地域を訪れた来訪者が吉野地域日本遺産のファンとなり様々な角度から吉野地域と関係を築き、持続的な活動を行っていくことで、吉野地域で大切に守られてきた森と人の営みとその文化を将来にわたって大切に継承する。

【上位計画への位置づけ】

協議会を構成する町村における総合計画等において、以下の内容で日本遺産に関する取組が記載されている。

(1) 日本遺産吉野地域を活用した広域観光の推進を目指し、コロナ禍における状況を踏まえ、協議会を構成する町村との連携を強化する。ワールドマスターズゲームズ 2021 関西 (2027)、日本国際博覧会 (大阪万博、2025) 等により中・長期的には訪日観光客の増加が見込まれる中で、インバウンド受け入れ態勢の整備や新たな地域資源の掘り起こし、日本遺産の構成文化財である、豊かな自然や歴史文化資源にストーリー性を持たせ、特色のある独自性を持った観光振興を推進していくこととしている。

(2) 近年のコロナ禍の状況を踏まえ、豊かな自然を楽しむ都市部の人々が増えたことで、年々地方のニーズは高まりつつある。このため、森林整備や遊歩道の整備・クリーンな移動手段の導入を進め、観光客に快適に過ごしてもらおうハード整備を進める。さらに、公共交通機関、道路整備、駐車場整備等、受け入れ環境の課題解決に努め、通年型の観光地を目指し観光客の滞在時間の増加を図る。

(3) 日本遺産を自分たちのまちづくりにどのように活かしていくかについて、地域の若手人材や事業者等のワークショップなどを積極的に開催して議論を進め、意見を集約し、豊かな地域資源を活用して地域を活性化していくための取組を促進していく。

(4) 日本遺産や国立公園等の豊かな地域資源を活用し、安心安全に過ごせる観光地を目指すべく新たな観光スタイルを推進する。

(5) リモートワークの需要が高まり、地方への移住を検討し多拠点居住、ワーケーション

ンなどの新しい生活スタイルの増加が見込まれることから、受入体制整備を行う。

【総合的な目標】

日本遺産吉野地域の最大の目的は、森と共に歩んできた「人々の暮らし」と「人々のところ」を守り伝え、地域振興に活かしていくことである。

国内観光客の求めるものの上に常にランクインしているものとして、温泉旅行、自然観光、グルメ、歴史観光が挙げられるが、日本遺産吉野地域はそのすべてのコンテンツを保持している。

また、各町村において日本遺産吉野地域認定を契機に四季を通じて賑わう持続的な観光地でありたいという共通認識が培われ、地域住民へのアンケート調査等でも歴史や文化資源、自然の保全と活用について高い意識を持っていることが分かっている。

このことから日本遺産吉野地域は、都市住民（観光客）のニーズと地域のニーズがマッチしている理想的な地域であり、都市と地域を繋げるきっかけが大切であると考えている。

日本遺産吉野地域の人々の暮らしとところが生み出してきた営みのある風景《例えば、山（美林）、川、建築（寺社、吉野建、街並み）、割り箸、樽丸（日本酒）など》を守りつつ、体験型コンテンツなどによりその価値を伝えていくことで、吉野地域の魅力を最大限発信できる体制を整えていく。日本遺産の取り組みのもと、観光の力を通して文化財の魅力と付加価値を高め、新たなファンを増やしていく。2025年までにコロナ前の観光客入込数まで回復させることを目標とする。

まず、地域住民が吉野地域の日本遺産について知識を深め、自信を持って来訪者に伝えられるようになることで、より高い興味関心や関わりを作り出し、リピーターになって再訪していただける地域を目指していく。そのためには地域プロデューサーの役割を担う体制が不可欠であり、DMO 法人である吉野ビジターズビューローが全体をマネジメントしながら、各町村で個別に活動している民間団体や事業者等と連携し日本遺産を活用して、吉野地域の PR を行っていく。また、吉野地域の日本遺産全体を伝えられる人材を育成することで、日本遺産の価値やストーリーを多くの方に知っていただける機会をつくることが重要と考える。

来訪者の増加が地域内消費の増加につながり、事業者の継続的な運営につながる。その結果、店舗の経営が維持されれば、人々の暮らしと人々のところが生み出してきた営みある風景を維持していくことが出来る。これら日本遺産のストーリーを活用し「人々の暮らし」と「人々のところ」を守り続けていくことで、観光客の増加、経済の活性化を目指していく。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：日本遺産構成文化財に関連した募集型ツアー及び教育旅行を合わせた受け入れ人数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	724	310	625	1,000	1,200	1,500
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産構成文化財に関連した募集型ツアー及び教育旅行を合わせた受け入れ人数を指標とし、地域の消費に繋げる。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：外国人宿泊者数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	6,217	445	154	4,400	5,100	5,400
目標値の設定の考え方及び把握方法	奈良県宿泊統計調査から数値を把握（奈良県南東部） 2025年にコロナ前の状態に戻すことを目指す。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：地域住民文化財保存における満足度意識調査（単位：%）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	93	90	92	92	93	95
目標値の設定の考え方及び把握方法	当地域の満足度は非常に高い。 奈良県民アンケート調査において、構成地域である「地域5（奈良県南東部）」における【文化遺産や史跡の保存】の満足度評価について、5段階評価で3以上の評価する方の割合90%以上を継続させる。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：主要スポットの観光客入込客数（単位：千人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	382	260	253	278	306	337
目標値の設定の考え方 及び把握方法	観光客数が把握できる主要構成文化財スポットの入込客数を指標とする。日本遺産認定以降、毎年約10%の伸びを維持してきた。(2016～2019)。しかしながらコロナの影響により来訪者が大きく減少した。(2020～2021)。今後は、2025年までにコロナ前の状態まで回復させるべく毎年10%増を目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：構成文化財を継承する人材の育成数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	10	8	10	10	14	15
目標値の設定の考え方 及び把握方法	<p>日本遺産を構成する事業を営む後継者不足が深刻化する中で、奨励金の支給や組合活動の支援を行うことで構成文化財の技術・技法を持つものが途絶えることの無いよう継続して支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業の担い手確保のため、ストーリーを後世に伝える人材（後継者）となる林業への新規就労者数を把握する。 ・日本遺産吉野地域の構成資産に関する技術・技法が継承されるよう、無形文化財（割箸の製作技術、柿の葉寿司、手漉き和紙、吉野葛等）の後継者として支援していく人材の数を把握する。 					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：宿泊客数（単位：千人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	308	200	206	225	262	277
目標値の設定の考え方 及び把握方法	<p>本地域に来訪する方の大半が日帰り観光である。また、シーズンごとに来訪者が集中することが課題である。今後、日本遺産のストーリーを感じる体験型プランを造成するなど、通年型観光を目指した誘客を図り滞在時間を延長することで、広域観光を推進していきたいと考えている。閑散期と呼ばれる時期に滞在時間が増</p>					

	<p>えれば宿泊に繋がり、本地域において広域的な経済効果が生じると考える。</p> <p>奈良県宿泊統計調査から数値を把握（奈良県南東部）</p> <p>2025年にコロナ前の状態に戻すことを目指す。</p>
--	--

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤-B：日本遺産構成文化財を活用した新商品の開発（単位：プラン）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	0	0	0	10	12	15
目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>観光客の周遊促進と滞在時間延長による観光消費増大を目的として、日本遺産構成文化財である「吉野葛」を活用したスイーツ食べ歩き事業を実施。若年層にも吉野葛の魅力を伝えるため、見た目の美しさも意識した新商品のラインナップを増やすことで、年間を通じた観光客誘致を狙う。</p>					

<p>(3) 地域活性化のための取組の概要</p> <p>日本遺産吉野地域は、春の吉野山の桜の時期を筆頭に夏の川遊びやアウトドア、秋の紅葉など、季節ごとにそれぞれのエリアでシーズンに観光客が集中して訪れる傾向があり、それ以外の時期は来訪者が大きく減少するという現状である。</p> <p>日本遺産吉野地域の構成文化財は歴史・文化、人々の暮らし、食など構成文化財が多岐にわたり、季節に関係なく楽しんでもらえるコンテンツが多く存在する。このような強みを生かし、日本遺産の価値を伝え、来訪者に地域の魅力に触れてもらうため、体験型プログラムの充実を図り、そのストーリーを伝えつつ地域経済の活性化に努めていく。以下の取組を進める。</p> <p>取組① 日本遺産を活用しストーリーを内外に伝えるため、民間事業者を巻き込んだ体制づくりの強化</p> <p>本協議会では日本遺産のストーリーを来訪者に広く伝えるため、民間事業者との連携を強化する。構成委員の民間団体だけでなく、現在それぞれの地域で活動する構成委員以外の民間団体（吉野と暮らす会、フォレストかみきた、下北山地域商社、ヨイヨイ川上、かわかみ源流ツーリズム等）との結びつきを強化していく。各団体の行うツアーやイベントを協議会が共有し、吉野ビクターズビューローと連携する体制を構築する。</p> <p>また、地域DMO法人である奈良県ビクターズビューローとも情報共有を密にし、プロモーションや商品造成を中心に連携を強化していく。</p>

取組② 構成町村の各種計画への日本遺産の位置づけの徹底と、協議会担当者の意識の共有

協議会内で取り組む事業については、これまで各事業ごとに協議し、ターゲット設定を行ってきた。今後は地域プロデューサーである吉野ビジターズビューローがノウハウやデータ等を活用したプロデュースを行い、各事業ごとに最適なターゲット設定や情報発信を行っていく。

吉野ビジターズビューローを含めた事務局会を頻繁に行い、協議会の将来像やそれを達成するための施策について、情報共有や意思統一に努めるとともに各町村の上位計画や事業にも反映させる。

取組③ 日本遺産のストーリーを来訪者に詳しく伝えるための人材育成と、日本遺産の技術・技法を継承する人材の育成

各町村において日本遺産の情報発信の拠点となる施設で業務に従事する職員に向けて、日本遺産の価値を伝えるための研修会を行う。日本遺産吉野地域のなかで町村の枠組みにとらわれず、構成文化財への訪問を促すことで、域内の広域周遊が可能になるよう人材育成に努めていく。

また、日本遺産の技術・技法を継承する人材の育成や無形文化財を継承するための支援にも積極的に取り組んでいく。

取組④ 来訪者が日本遺産のストーリーを快適に楽しむための環境整備

当該地域には鉄道や路線バスが通っていない地域も多く、来訪者の利便性向上のために、域内移動手段の確保に取り組む。アクセスルートの改修や駐車場の確保を行う。

また、構成文化財を守るため、美しい景観の保全にも取り組んでいく。

取組⑤ 日本遺産のストーリーを活用して観光客を誘致する

日本遺産のストーリーを活用して、広域的な観光周遊を目指していく。町村の枠にとらわれず、来訪者が日本遺産をきっかけとして複数の町村を巡り滞在時間の増加を目指すことで地域内の消費の拡大につなげる。

また、教育旅行を積極的に誘致することで、次代を担う若者に日本遺産吉野地域のストーリーを伝え、大切に継承するべき資源であることへの理解を醸成する。

取組⑥ 地域の学校や民間事業者と連携して、日本遺産のストーリーを子どもたちに伝える

地域内の小中学校等に日本遺産のストーリーを伝えることで、地域の文化に誇りを持つ子ども達を増やしていく。さらにストーリーの根幹である林業についても知識を深めるため、ふるさと教育を積極的に行っていく。

取組⑦ SNSを活用し新しい層へ日本遺産のストーリーを伝えるためのチャレンジを行う

これまで、協議会の取組として情報発信の担当者を町村ごとに選出し、連携してSNSを活用した発信を行ってきた。さらにSNS等の活用方法について知識を深めるとともに、民

間の関係団体とも連携しながらバージョンアップを図り積極的なプロモーションを実施していく。

エリア全体の来場者属性として高齢者世代が多く、若者世代への訴求として、また美しい自然景観が残されている地域であることを活かし、「映える」投稿をシェアする傾向にあるインスタグラムでの発信を重点化する。フォロワーと連携しながら多くの人に吉野地域を知ってもらう機会を創出していく。

(4) 実施体制

【実施体制】

協議会構成団体为中心となり実施するが、大学や民間事業者からも随時参加を募る。

【行政】吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村、(奈良県)

【民間】吉野ビジターズビューロー・吉野町商工会・吉野中央森林組合・下市町観光協会・下市町商工会・下市町森林組合・黒滝村商工会・黒滝村森林組合・天川村商工会・大峯山洞川温泉観光協会・天川村森林組合・下北山村商工会・上北山村商工会・上北山村観光協会・吉野きたやま森林組合・吉野かわかみ社中、川上村商工会・川上村森林組合・東吉野村観光協会・東吉野村商工会

(事務局は吉野町産業観光課)

協議会の構成町村は、地域の関係団体や民間事業者等との情報交換を積極的に行い、情報を確実に共有する体制を構築している。

また、奈良県において令和4年4月に施行された県南部東部地域の振興を基本理念とする「奈良県美しい南部・東部地域を県と市町村が協働して振興を図る条例」には、日本遺産吉野地域はすべてその対象地域に含まれていることから、吉野地域日本遺産の活用方法について県の担当部局と連携を密に振興を図っていく。

今後、日本遺産吉野地域の中心的役割を果たすのが吉野ビジターズビューローとなる。今年度から日本遺産の構成文化財「吉野葛」を活用した新商品開発と滞在時間延伸のためのスイーツ食べ歩き事業などの取り組みを推進している。加えてこの団体は、旅行業免許を保有していることから、日本遺産を活用した体験コンテンツの造成や誘客事業を積極的に行っていく。

また、それぞれの構成町村においても日本遺産関連のツアー造成や情報発信に精力的に取り組む団体が増え、町村の枠組みにとどまらず、来訪者及び宿泊者を隣接する町村の構成文化財に案内するツアーも開催している。

今後は構成各町村において情報交換を積極的に行い民間団体の取り組み等を共有し、地域の交通事業者との連携や協議の機会を設けるなど、吉野地域日本遺産を広域的に伝えていく体制づくりを強化する。

[人材育成・確保の方針]

吉野地域が日本遺産に認定を受けたことで、地域のキーマンが各町村に生まれ、民間団体等による独自イベントやツアーが開催されている。それらの取り組みに横串を通し広域的な観光振興を担う地域プロデューサーの役割をDMO法人吉野ビジターズビューローが担い、地域全体の面的な観光振興の取り組みを推進する。また、造林発祥の地として、吉野

林業を次世代につなぐ取り組みを各町村が推進している。スイスのフォレスター制度などをモデルとした奈良県フォレスターアカデミーが、人材養成機関として当地域で設立され、各町村が林業の担い手育成及び未来の森林環境管理を創造する取り組みが広がっている。協議会では、各町村での人材育成や後継者養成の情報連携を図ることで、吉野地域全体で日本遺産の構成文化財を継承していく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産の取り組みやその価値を発信していくことも協議会の役割であるが、協議会に資金を集中してすべての事業を実施するのではなく、各町村が支援する吉野ビクターズビューローや源流ツーリズム、地域商社など体験やツーリズムを提供できる組織間の連携を促すことが自走につながると考える。

日本遺産吉野地域そのもののブランディングや活用の方向性を決めるのは協議会で引き続き検討していく。

また、協議会が主体となり、森林環境譲与税等の財源を視野に入れ、都市部の自治体と連携した森林体験ツアー等の取り組みを継続していくことで、森林保全や活動等に関心をもつ人材の裾野を広げ、吉野林業の担い手不足といった課題解決に取り組んでいく。

地域にある素材の組み合わせを考えてツアー化したり、体験コンテンツを造成するのはプロデューサーである吉野ビクターズビューローが担い、行政はそれを支援し民間事業者はその支援を上手く活用しながら来訪者を増やす努力をし、このように文化や事業を継続させることに寄与する体制を整えていくことが自走に繋がると考える。

【教育における日本遺産の価値を伝える人材の確保】

地域の子どもたちに日本遺産の価値を伝え、地域に誇りを持ってもらう取り組みを今後も継続して行う。日本遺産のストーリーに興味を持ちその価値を理解した子どもたちが次世代に伝えていくことが、日本遺産の継続的な運営につながると考える。

【大学との連携について】

外部の視点から地域の魅力を考えてもらうため各大学との連携も強化していく。現在、以下の大学と連携しながら日本遺産を含む自然を守り活用していく取組を行っている。今ある地域資源の活用と、新たな地域資源の発掘に取り組む。

(早稲田大学、奈良女子大学、大阪工業大学、奈良県立大学 等)

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

柿の葉寿司が構成文化財として認定を受けたことで注目度が上がり、事業協力の機運が高まったことで組合の発足につながった地域もある。それにより事業者横断による食べ比べセットの開発やふるさと納税への参画など、構成文化財の新たな地域活性化のきっかけとなっている。また、日本遺産マークのシールを作成したことで、日本遺産活用に向けた機運が高まり多くの事業所が日本遺産の活用に参画している。

情報発信では、日本遺産認定以降に協議を重ね、SNS 研修などで担当者のスキルアップを行い、独自の撮影技法や編集方法を身につけてきた。発信する時間やタグの付け方、色味などを創意工夫を重ねた投稿を行うことで着実にフォロワーを増やしている。これまでとは違ったフォトジェニックな写真として構成文化財や季節の風景を発信することで歴史・文化に興味がある来訪者だけでなく、写真に興味のあるカメラマンや、その写真を見て日本遺産吉野地域に行きたくなった来訪者など、新たな誘客のツールとして情報発信を強化していく。

また、日本遺産を活用した新商品の開発により、これまでの客層とは違った形の来訪者の増加も見込まれ、地域事業者への誘客の幅が広がり地域全体が活性化することが見込まれる。今後も、日本遺産を生かした観光関連事業の創出に尽力し、地域経済の好循環が生まれるよう取り組んでいく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	吉野地域日本遺産活性化協議会運営事業		
概要	事務局会や幹事会、総会の開催などの運営を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	吉野地域日本遺産事務局会の開催	各団体の情報共有を目的として定期的に事務局会を開催する。場合によってオンライン会議もうまく活用する。	吉野地域日本遺産活性化協議会
②	総会の開催	民間団体との意見交換や取り組み実績報告のための総会を年1回行う。	吉野地域日本遺産活性化協議会
③	民間団体との意見交換会の実施	協議会の構成団体以外の団体で、日本遺産に関係するツアーやイベントを行う団体との意見交換を行い協力して事業を実施する体制を整える。	吉野地域日本遺産活性化協議会・民間事業所
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	事務局会実施回数/民間団体との意見交換会		3回
2020年			1回
2021年			2回
2022年	事務局会実施回数/民間団体との意見交換会		6回/2回
2023年	〃		12回/3回
2024年	〃		12回/3回
事業費	2022年：0	2023年：0	2024年：0
継続に向けた事業設計	<p>それぞれの地域において日本遺産に関するツアー造成や商品販売、ワークショップやふるさと納税などの取り組みは個別に行われており、情報共有が出来ていなかった部分はこれまでの反省点と考えている。</p> <p>今後は協議会において日本遺産吉野地域で取り組んでいる各事業が見える化し、共有できる体制づくりを行っていく。</p> <p>幹事会、事務局会を積極的に行い、情報共有を行っていく。オンラインでの開催によりシリアル型の距離の問題を解決し意見交換の回数を増やしていく。</p> <p>また、協議会に加入している民間団体と個別に活動する民間団体の両方の意見交換会を積極的に実施することで、日本遺産活性化協議会と連携し情報発信等の事業を行っていく。</p> <p>協議会未加入の団体は、賛助会員等として加入していただくことも視</p>		

	野に入れ裾野を広げていく。 (構成委員以外で、民間で日本遺産に関連する活動を行っている団体) ・奈良県ビジターズビューロー、吉野と暮らす会、フォレストかみきた、 下北山地域商社、ヨイヨイ川上、かわかみ源流ツーリズム等 各事業費は人件費のみであり、協議会での費用は発生しない。
--	---

(事業番号 1 - B)

事業名	事業の企画・実施を行う組織の整備		
概要	事業の企画・実施を行う体制を整備し、事務局会以外に担当者や地元団体とが意見交換できる場を設けるなど、官民連携が行える体制を整える。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報発信担当者会議	SNS 情報発信を行う担当者や新たな企画を提案するための若手担当者が集まる会議を積極的に行っていく。部会を作りそれぞれで個別の事案について取り組む体制を整備する。	協議会
②	民間団体との情報交換	民間団体の会議に参加したり、現地視察を行う。協議会メンバーがそれぞれの取り組みを把握することで、各地域の取り組み方針と協議会方針との足並みを揃える。	協議会 民間団体
年	事業評価指標	実績値・目標値	
2019年		-	
2020年		-	
2021年		-	
2022年	個別部会の開催/民間団体との意見交換	3回 / 8団体	
2023年	〃	3回 / 8団体	
2024年	〃	3回 / 8団体	
事業費	2022年：960千円 2023年：960千円 2024年：960千円		
継続に向けた事業設計	<p>各部会により担当者レベルでの企画をボトムアップし、協議会で計画の検討を重ねる。また、各団体の意見も吸い上げながら限られた予算の中で事業を検討する。</p> <p>各自治体からの負担金についてはこれまで通り継続して予算化する。また、事業実施の内容に応じて予算を計上することを各首長の意見交換会で決定済みである。</p> <p>シリアル型のため広範囲に構成文化財が存在するため、各町村の取り組みについて理解を深めるための視察等を行い、意見交換を行う。オンライン会議の開催も積極的に活用しながら、他町村の構成文化財を理解することで、来訪者へ広域周遊を促す仕組みを整える。</p>		

(事業番号1-C)

事業名	大学との連携		
概要	大学と連携して、未来を担う学生の目線によりストーリーの根幹である林業や景観保全、地域資源の掘り起こしについて共に考える。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	豊かな森を活かした地域活性化のための人材育成事業	<p>豊かな森林の環境保全や景観向上を図り、森林から生まれる木材の魅力を活かした用途開発や木材活用を行うことで、地域産業の活性化につなげる。</p> <p>「森づくり」をテーマに大学と協定を締結し、各種事業を展開している。</p> <p>(具体的取組み内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林環境や公益性を重視した森づくりに係る調査研究事業 ・森林利用の促進に向けた取組みの検討及び広報活動 ・林業・木材産業の振興活動 	上北山村、早稲田大学
②	水源地の森 環境教育 吉野林業継承事業	<p>2010年に「連携・協力に関する協定」を締結し、廃校舎のリノベーションや新入生オリエンテーリングなど実施してきた。</p> <p>日本遺産に登録以降は、住民を講師として、日本遺産の価値を伝える座学授業や水源地の森トレッキングなどを行い、森と共に生きてきたこの地の暮らし・文化を伝えている。この取組みは、日本遺産の構成文化財を現地学習のフィールドとして位置づけ、今後も継続して行っていく。</p>	川上村、大阪工業大学
③	都市部の学生団体との交流事業	<p>学生団体まといの活動</p> <p>村の木材を使って生まれ変わった空き家を拠点に、東京からの企業誘致や学生団体の発足による地域課題解決の動きに発展している。</p> <p>首都圏の大学生が中心となって設立した「まとい」は、村で伐採した木材を使って、地域住民と空き家リノベーションを行っている。加えて、地域課題(構成文化財を含む特産品の生産者高齢化等)に向き合い、プロモーションを行うことで、さらな</p>	下北山村

		る関係人口の創出、地域の担い手発掘を行っている。 今後は、首都圏でのPRや地元の児童生徒に対して、学習指導等の計画している。	
④	地域の魅力再発見事業	奈良県立大学と連携して「地域の魅力の掘り起こし」をテーマとし、地域の伝統的食文化や生活慣習などの聞き取りや復元作業を通じて、地域の魅力の発見に努めている。 (具体的取り組み内容) ・村の良さや歴史、伝統を伝えるためのパンフレット作成 ・村に伝わる伝統的な料理の組み合わせ、献立作りと情報の発信 ・林業の仕事がしやすい「黒滝袴」という伝統的な衣服の復元と情報発信	黒滝村、奈良県立大学
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			-
2020年			-
2021年			-
2022年	各大学と連携して行う事業数		4事業
2023年	〃		8事業
2024年	〃		12事業
事業費		2022年：960千円 2023年：960千円 2024年：960千円	
継続に向けた事業設計		<p>大学での様々な学びは、次の世代を担う若者にとって、広い視野で物事を考える人材の育成につながる。各大学と連携し取り組みを進めることは、地域資源の掘り起こしだけでなく若者から、後継者問題など構成町村が有する多くの課題について有意義な提案や意見を聞く機会となる。また、学生が社会人となり仕事での活動を通じて、吉野で学んだ取り組みを活かしていただくことが出来れば、後継者問題にも一翼を担って頂くことが出来る。</p> <p>それぞれの取り組みについて協議会内で共有し、ストーリーを伝える仕組みづくりに生かしていく。</p>	

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	構成町村戦略立案事業		
概要	構成町村の様々な計画に日本遺産に関する事項を盛り込むため、事務局会等を定期的に行い情報共有に努める。協議会内で誘客ターゲットへの情報発信の方法など共通の認識を持って、成果検証を行いながら日本遺産を推進していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	総合計画、基本計画への記載	各町村の総合計画、基本計画等の中に日本遺産の活用について触れ、自然保護と文化財の保存についての記述を盛り込んでいく。	構成町村
②	戦略立案及び効果の検証	定期的に開催する幹事会において、戦略的に設定した誘客ターゲットへの情報発信などの効果の検証を行い次につなげる。	協議会
③	アンケート調査実施	構成町村での総合計画や戦略などの策定時に行う住民アンケートに、日本遺産に関する調査項目を計上する。	構成町村
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			-
2020年			-
2021年			-
2022年	各町村の計画等に日本遺産に関する事項の記載		8
2023年	〃		8
2024年	〃		8
事業費	2022年：0	2023年：0	2024年：0
継続に向けた事業設計	構成町村の様々な計画の中に、日本遺産に関する自然保護や文化財の保存活用について記載することを徹底する。日本遺産の位置づけや他の政策との関係性を明確化していく。事業費は人件費及び構成町村の経費で行い、協議会より費用は発生しない。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	人材育成事業		
概要	構成文化財や産業に係わる人材を育成し、日本遺産のストーリーを後世に伝える。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	森林塾の開催	日本遺産吉野地域のストーリーの根幹にある林業の担い手確保と移住促進も視野に入れ、人材育成のプログラムとして「森林塾」を開催。自伐型林業に興味のある方を含み講習を行う。林業活性化のため、協議会とも連携し造林発祥の地のストーリーを後世に伝える人材の一人となってもらおう。 また、この事業により6名が地域おこし協力隊（林業担当）に採用され、2名が林業事業体を起業し後継者として活動している。	天川村
②	ネイチャーガイド養成講座	日本遺産を紹介する観光に特化した「ネイチャーガイド養成講座」を開催し、ガイドになるべき人材の育成を行っている。令和4年度末には認定ガイドが誕生する見込みである。	天川村
③	吉野杉伐採ツアー（ストーリーの伝承）	吉野杉を使用して住宅を建てたい個人や事業者に向けて吉野杉の伐採を見学するツアーを行い、吉野杉の歴史や文化、水源地の森の保全等について伝える活動を行っている。	(一社) 吉野かわかみ社中
④	日本遺産情報発信施設担当者研修会	構成町村において日本遺産の情報発信の拠点となる施設に従事するものについて、日本遺産の価値を伝えるための研修会を行う。 来訪者に町村の枠組みにとらわれず他の町村の構成文化財への訪問を促すことが出来るよう人材育成に努めていく。	構成町村情報発信施設担当者
⑤	SNS 担当者研修	これまで共通の認識のもとに情報発信を行うため、各町村で担当者を決め発信体制を整備してきた。今後も継続して担当者のスキルアップを図る。	協議会 民間団体

年	事業評価指標	実績値・目標値
2019年		---
2020年		---
2021年		---
2022年	人材育成のための講座開催回数	20回
2023年	〃	22回
2024年	〃	24回
事業費	2022年：800千円 2023年：800千円 2024年：800千円	
継続に向けた事業設計	構成町村において観光ガイドの育成に力を入れている。吉野ビジターズビューローが地域プロデューサーの役割を担いつつ、構成町村でも情報発信施設の担当者等が日本遺産吉野を広域的にプロデュースできる人材を育成し連携体制を整える。将来的には構成町村に副プロデューサーが存在し、吉野ビジターズビューローがそれを集約する形にしてい	

(事業番号3-B)

事業名	構成文化財継承者支援事業		
概要	構成資産を後世に継承していくため、後継者問題に積極的に取り組む		
	取組名	取組内容	実施主体
①	後継者育成支援事業	日本遺産構成資産に関する技術・技法を継承する人材の育成、確保を行うために文化財保護審議会で認定を受けた者について奨励金を支給している。 対象：柿の葉寿司、手漉き和紙、吉野葛など。	吉野町
②	割箸製造者、和紙製造者、三宝製造技術者への支援事業	構成町村で生産されている割箸については、産業として製造技術の継承、製造者の確保などの課題を解決する手段として、補助金を交付し支援を行っているほか、後継者問題に対するアンケート調査の実施や地域おこし協力隊による後継者育成などの取り組みも進めている。 また、和紙製造技術、三宝製造技術に対しても組合活動を支援し、後継者育成に努めている。	吉野町 下市町

③	森林資源の保全と担い手育成事業	林業従事者の人手不足が深刻化する中、構成町村では地域おこし協力隊の採用や森林塾の開催、伐採ツアーの実施などを行う。 また、奈良県フォレスターアカデミーによる林業従事者の育成など関係機関と連携しながら構成文化財の後継者育成に積極的に取り組む。	構成町村
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			10人
2020年	構成文化財を継承する人材の育成者数		8人
2021年			10人
2022年		〃	10人
2023年		〃	14人
2024年		〃	15人
事業費		2022年：1,405千円 2023年：1,885千円 2024年：1,885千円	
継続に向けた事業設計		日本遺産を構成する事業を営む後継者不足が深刻化する中で、奨励金の支給や組合活動の支援を行うことで構成文化財の技術・技法を持つものが途絶えることの無いよう継続して支援していく。	

(7) - 4 整備			
(事業番号4-A)			
事業名	天川村周辺地区の再開発事業		
概要	天川村周辺地区は年々来訪者が増加しているが域内の移動手段が不便であることが周辺観光地への移動を阻み、域内全体の観光に繋がっていないことが課題であった。また、マイカーの来場者の駐車場の整備も不十分であり渋滞の発生や、住民や来訪者が不便な状況を招いていた。それを克服するために、受け入れ環境の整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	域内移動手段の確保	天川大辨財天社から洞川温泉への臨時バスを期間限定で運行する。それにより、路線バス等での来訪者が単一箇所にとどまらず複数のスポットへの移動が可能になる。(5,000千円)	天川村
②	洞川温泉駐車場の整備	国道309号の渋滞解消として、事業実施について4000㎡の用地を買収済み。 駐車可能台数が70台から170台になる予定。令和4年度、5年度は準備期間で130万の予算(5年度は未定)。令和6年度4000	天川村

		万の予算により本格着工の予定。 これにより、日帰り観光のニーズの高まりによる来訪者の受け入れがスムーズになり、受け入れ人数と域内消費の増加が期待できる。	
年	事業評価指標	実績値・目標値	
2019年	臨時バス運行回数 14日×5便。利用者の増加に伴い増便も検討していく。バス運行の周知も必要であると考えている。	-	
2020年		-	
2021年		180/人	
2022年	バスの利用人数	200/人	
2023年	〃	220/人	
2024年	〃	240/人	
事業費	2022年：6,300千円 2023年：5,000千円 2024年：45,000千円		
継続に向けた事業設計	駐車場のキャパシティを増やすことでマイカーでの受け入れ人数の増加を増やし、域内の消費喚起につなげるとともに、マイカー以外(路線バス等で来られる方)の移動手段も確保することで地域内での滞在時間の増加も見込まれる。		

(事業番号4-B)

事業名	ストーリー維持のための里山の景観保全事業		
概要	本協議会の構成文化財の多くは、先代より守り続けてきた山々の景観・風景にまつわるストーリーであり山林の整備がストーリーの維持に直結する。そのため、里山の維持管理に関する事業を積極的に行っていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	桜(山林)の保全に関する費用	地域の人々が守り続けてきた山の整備費用として公財)保勝会に負担金を拠出し景観・風景の維持管理委託を依頼する。	吉野町
②	吉野万葉整備	吉野の木を吉野川に浮かべて運ぶ様子を詠んだ歌が、『万葉集』に載っている。理由は日本遺産の構成文化財である「吉野川の開削跡」の近くに吉野宮跡(国史跡・宮滝遺跡)があったためである。この遺跡を、川や『万葉集』の景色が楽しめる遺跡公園として整備する。	吉野町
③	キハダ保全事業	構成文化財である陀羅尼助の原料であるキハダを守るための取り組みを継続して行っていく。	天川村

		令和 3 年度に坂本龍一氏が主となり行っている「みらい基金事業」により、靴メーカーの UGG、VISA カードが参加し、奈良県有林跡地に陀羅尼助丸の原料であるキハダの植樹を行い、日本遺産の原材料を守り利用する活動を行っている。	
年	事業評価指標	実績値・目標値	
2019 年	里山の維持管理に関する業務委託	1 件	
2020 年		1 件	
2021 年		2 件	
2022 年	里山の維持管理に関する業務委託	2 件	
2023 年	〃	2 件	
2024 年	〃	2 件	
事業費	2022 年 : 5,176 千円 2023 年 : 5,000 千円 2024 年 : 5,000 千円		
継続に向けた事業設計	<p>これまで行っていた里山の維持管理についての業務委託について継続して行っていく。</p> <p>ふるさと納税の使途として自然環境・文化財の保存を計上し、維持管理に必要な財源確保を行っていく。</p>		

(事業番号 4-C)

事業名	「石の廟塔案内板整備事業」(鳳閣寺関連文化財)		
概要	鳳閣寺の説明版に、QR コードを記載し、関連するホームページにアクセスできるようにし、現地に訪れた人に効果的に日本遺産の構成文化財を説明する仕組みづくりを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「石の廟塔案内板整備事業」(鳳閣寺関連文化財)	構成文化財鳳閣寺にある説明看板に QR コードを設置し、吉野地域日本遺産活性化協議会 HP、黒滝村 HP に誘導することで来訪者により詳しく構成文化財を説明する仕組みを作る。	黒滝村
年	事業評価指標	実績値・目標値	
2019 年		—	
2020 年		—	
2021 年		—	
2022 年	ホームページアクセス件数	50,000 件	
2023 年	〃	53,000 件	
2024 年	〃	55,000 件	

事業費	2022年： 1,000千円 2023年： - 千円 2024年： - 千円
継続に向けた事業設計	今回の事業は奈良県文化資源活用課の補助事業となるため単年度事業である。この取り組みを他町村にも教えることで来訪者の利便性向上に協議会をあげて取り組んでいく。 2022年単年度事業。

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号5-A)			
事業名	観光促進事業		
概要	吉野ビジターズビューローと協業し、構成文化財を活用したツアー造成を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光関連商品の開発	旅行業資格を持った地域 DMO 法人である吉野ビジターズビューローにツアーの企画造成等に関することを委託して実施する。日本遺産吉野地域の人々の暮らしとところが生み出してきた営みのある風景を守り、伝えていくため、都市部の自治体と連携し、森林環境譲与税を活用した森林体験ツアー等の受入体制を整える。	吉野町
②	体験プランの造成	日本遺産の文化を肌で感じてもらうための体験プランの造成を推進していく。勤行体験、柿の葉寿司づくり体験、一日巫女体験など。 体験プランについては、国内 OTA において販売するほか、吉野ビジターズビューローHP においても販売する。協議会の HP でも広報を行い、同サイト内の地域商品販売コンテンツの登録(無料)も促していく。	地元事業者
④	プレミアム文化観光ツアーの造成	一般財団法人関西観光本部と連携して、今後回復が見込まれる海外富裕層向けの高付加価値ツアーの企画・造成・販売を行う。日本遺産の構成文化財(修験道、手すき和紙、吉野杉など)に関連した、通常では体験できない、または立ち入ることが出来ない特別プログラムを造成し、海外富裕層の SIT 層や ET 層に向けたテーラーメイド商品として販売展開する。	吉野ビジターズビューロー

年	事業評価指標	実績値・目標値
2019年	日本遺産構成文化財を活かしたツアー造成数	11
2020年		3
2021年		8
2022年	〃	12
2023年	〃	15
2024年	〃	20
事業費	2022年：36,000千円 2023年：36,000千円 2024年：36,000千円	
継続に向けた事業設計	<p>吉野ビジターズビューローでは、旅行商品や体験プランの造成、販売を行っており、OTA等とも連携を図ることで旅行商品の流通販売を促進している。また、地元事業者においても、飲食や土産物販売以外に体験プランを造成・販売することで、新たな観光消費を創出することが可能となる。協議会としては、造成した体験プランの販売促進に寄与するため、地域のブランディング、情報発信等に努める。</p> <p>また、協議会が主体となり、森林環境譲与税等の財源を視野に入れ、都市部の自治体と連携した森林体験ツアー等の取り組みを継続していく。</p>	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	教育事業		
概要	地域内のこども園・小学校・中学校に対して日本遺産を活用した地域教育を実施		
	取組名	取組内容	実施主体
①	吉野さくら学園の開校	令和4年4月に小中一貫校が開校する。地域資源（自然、歴史、文化、産業）を生かした国際性豊かな学びを創造する場として基本理念を掲げてふるさと教育に力を入れていく。そのすべてに日本遺産の構成文化財が関係しており、日本遺産の認知向上と地域の愛着度の向上に寄与する。	吉野町
②	ふるさと教育の推進	各学校のふるさと教育に日本遺産を利用してもらう。吉野郡の社会科研究会や各学校と連携して行う。	構成町村
③	木育活動	年代別に吉野林業に触れてもらい郷土愛醸成を図る。(木に触れ愛着や誇りを感じる)	地域内教育機関
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	県民アンケート調査において、構成地域である「地域5（奈良県南東部）」における【自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること】の満足度評価について、5段階評価で3以上の評価をする方の割合を2024年までに65%まで引き上げる。		56%
2020年			46%
2021年			47%
2022年	〃		55%
2023年	〃		60%
2024年	〃		65%
事業費	2022年：0千円 2023年：0千円 2024年：0千円		
継続に向けた事業設計	<p>子どもたちが日本遺産についての知識を深めるために、ふるさと教育の一環として吉野地域の子ども向けパンフレットを制作した。吉野郡の教職員で組織する社会科研究会にも協力を仰ぎ、夏休みの自由研究やふるさと学習に使用してもらうため、構成町村の小学生すべてにアニメーションを使った日本遺産の補助教材を配布した。日本遺産の価値を知ってもらい、地域の子どもたちがそのストーリーを後世にわたって伝えていくための土台作りとしてふるさと教育に力を入れていく。</p> <p>本協議会のストーリーにあるように、森と人々の暮らしを伝える取組として木育活動も積極的に行っている。初めて生まれた子どもに木のお</p>		

	<p>もちやをプレゼントする取組や、こども園の遊具に吉野杉を使うなど、各町村ともに木と触れ合う機会を大切に教育活動を行っている。子どもたちが成長した際に日本遺産のストーリーを伝える仕組みや、地域の文化を伝える仕組として人材育成を図ることが継続的な運営につながると思っている。</p> <p>事業費は人件費及び構成町村の経費で行い、協議会より費用は発生しない。</p>
--	---

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号 7-A)			
事業名	SNS 情報発信事業		
概要	地域情報発信スキルの向上・デジタルコンテンツを使用した観光客の集客方法の確立		
	取組名	取組内容	実施主体
①	SNS による情報発信	Instagram の投稿について担当者を決めて1日1回必ず投稿していく。講師の指導のもと、フォロワーを増やすための工夫を凝らし、他のインフルエンサーと協業した SNS 発信を強化していく。	吉野地域日本遺産活性化協議会
②	ホームページ再編	現在の HP をよく閲覧する人の属性などを分析してニーズに合ったアップデートを実施する。また、Instagram や民間サイトとの連携により、閲覧数を伸ばしていく。	吉野地域日本遺産活性化協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	年間ホームページアクセス件数 Instagram フォロワー数		HP31,888 / インスタ---
2020 年			HP43,168 / インスタ---
2021 年			HP46,693 / インスタ 830
2022 年		//	HP50,000 / インスタ 1,200
2023 年		//	HP53,000 / インスタ 1,800
2024 年		//	HP55,000 / インスタ 2,300
事業費	2022 年：450 千円 2023 年：400 千円 2024 年：400 千円		
継続に向けた事業設計	2021 年に SNS 講習会を実施し、各町村の SNS 担当者を決定した。また、ターゲットを絞るため Instagram の投稿内容や投稿する時間、撮影の方法等の取り決めをおこなった。令和 4 年 4 月から各町村で投稿する日を決め毎日 1 投稿を行い、フォロワー数の増加を目指す。また、Instagram でフォローされやすいようにタグ付けの方法や、独自のハッ		

シュタグの作成、有名インフルエンサーとのコラボなどを講師の指導のもと行っていく。

また、Instagram のページと HP をリンクさせており、フォロワーを増やすことで、これまで以上に HP の閲覧数の増加が見込まれる。HP の閲覧数が増えればエリアゲートの商品販売も効果的に行うことが出来るようになる。